

「両片思いという言葉はなぜ登場し、広く使われるようになったのか？」

1 きっかけ

「両片思い」という言葉が昔はなく、「両思い」という言葉の範疇であったことを最近知った。「両思い」という言葉は「両片思い」と区別される気がするが、どのようにして「両片思い」という言葉が生まれ、広く使われるようになったのか気になった。

2 調査

まず、「両思い」および「両片思い」の意味を調べた。

広辞苑によると、「両思い」とは、

『*1（「片思い」に対する造語）互いに相手を受すること。相思相愛。』

とある。

一方、「両片思い」は広辞苑に掲載がなかったため、「両片思いとは」で検索した際に一番上にヒットしたページの定義を参照することにした。亀吉鑑定所というページによると、「両片思い」とは、『*2お互いに好意を抱いているのに、その気持ちに気づかず、自分だけが片思いをしていると思込んでいる状態のこと』

とあった。

念のため、「片思い」も広辞苑で調べた。すると、「片思い」とは『*3一方からだけ思い慕うこと。片恋。』

である、とされていた。

3 結果

「両片思い」という言葉と「両思い」の違いは、「両片思い」は「お互いに気持ちに気付いていない」という条件があるが、両思いにはその部分の条件が明記されていない、という点にある。

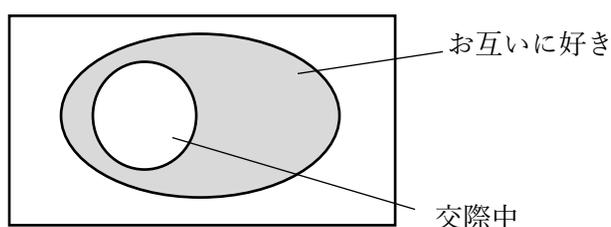
4 疑問

「両思い」において、お互いの気持ちが共有された場合、交際に至るのが普通である。そして、交際に至った二人を指して、わざわざ「両思い」と表現することは不自然である。普通は、「交際中」や「付き合っている」と呼称する。

日常的な会話において「台形を描いて」と指示された場合、条件の厳しい「正方形」のような形の台形ではなく、平行な対辺が1組だけの台形を描くのが自然である。これはわざわざ「正方形」ではなく「台形」を指示していることから推測される事柄である。

したがって、より条件の厳しい「交際中」をわざわざ「両思い」と呼称するケースは少なく、「両思い」という言葉が使われるのは、お互いに気持ちはあるが、「交際中」ではない状況に限る（図1の灰色の部分）、と推測される。「両片思い」と大部分が共有されており、「両片思い」という言葉の誕生の必然性に疑問が生じる。

図1
旧来のベン図



5 反論的事例

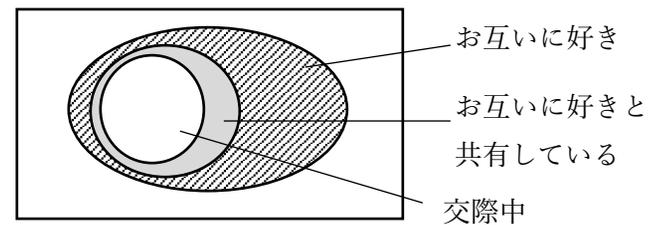
4の疑問について、例えば、お互いの思いは共有されたが、交際

には至っていないケースについては、「両片思い」ではなく「両思い」という言葉だけが使える状況である。

例えば、両者に別に交際相手がいて道義的に新たな交際には至れないケースや、意思が確認されたものの、まだ正式には交際に至っていない期間などが挙げられる。

図2において、灰色の部分で「両思い」という言葉が使われる部分で、斜線部が「両片思い」という言葉が使われる部分である。

図2
昨今のベン図



6 考察

5のケースを考えるとたしかに「両思い」と「両片思い」というそれぞれの言葉が指す領域が異なっていることが確認できた。しかし、この場合、現実的に「両思い」という言葉が示す状況はあまり多くなく、「両片思い」という言葉が必要とされ、ここまで広く使われるようになった根拠としては十分でないように感じる。

そこで、「片思い」という言葉の意味について考えることにした。「片思い」は、もともと前述のような「状況」を説明する言葉であったが、使用頻度が増えるにつれ、その際の「切なさ」や「甘酸っぱさ」といった「感情」も言葉の意味として付随するようになった。言葉には、こうした意味変化が起こりうる。今回のケースはその意味変化の中でも意味拡張の中の「主観化」と呼ばれる現象であると考えられる。

「片思い」の意味が主観化した一方で使用頻度の低い「両思い」という言葉には主観化が起きなかった。したがって「両思い」は状況の説明としては「片思い」の対義語として成立していたが、主観化された感情的な意味での「片思い」の対義語としては不十分であった。そこで、「片思い」のもつ感情的な意味を継承した対義語である「両片思い」が登場し、さらにこれが前述の通りに辞書的な意味としても「両思い」と領域が微妙に異なるため、広く使われるようになった、と考えられる。

7 まとめ

本稿では、「両片思い」という言葉に対する違和感から、ある言葉と対義語にあたる言葉の意味変化に偏りがあった場合、新しい言葉が必要になる可能性について示唆することができた。

本稿ではその偏りの原因を使用頻度としたが、その検証は不十分であり、また、事例も「片思い」という1つの言葉についてのみ考察したに過ぎない。これらの点における論の展開が今後の課題だと考えられる。

【参考文献】

※1 広辞苑第7版（岩波書店） p.3092

※2 亀吉鑑定所

https://media.jingukan.co.jp/kantei_what_is_a_mutual_crush/#index_id0

※3 広辞苑第7版（岩波書店） p.562